

ガダルカナル島で心理戦と情報戦が始まった

高井 晋

ソロモン諸島は、1978年7月7日に英国から独立した南太平洋の島嶼国で、面積は約3万平方キロ、人口は70万人弱あり、首都はガダルカナル島のホニアラにある。第2次世界大戦中の1942年には、旧日本軍がソロモン諸島を一時的に占領したが、1943年に戦死者約2万人を数える激戦の末に米軍に奪取され、米軍は1950年まで駐留していた。

ソロモン諸島のソガバレ首相は、2022年4月19日、中国との安全保障協定に正式調印したと発表し、2021年11月の暴動への対応などの国内治安維持を目的にしたと説明した。



しかし同協定は、ソロモン諸島への中国人民解放軍や警察の派遣、中国人民解放軍海軍艦艇の寄稿、補給を可能にする内容と言われ、オーストラリアを始め、米国、ニュージーランドそして日本は、中国が南太平洋侵出の拠点確保に繋がるとして警戒感を強めている。

米国はインド太平洋調整官のカート・キャンベルや東アジア太平洋担当国務次官補のダニエル・クリテンブリン、オーストラリアは国際開発・太平洋担当相をソロモン諸島へ派遣し、同協定が透明性を欠いていて地域の安定を損なう可能性があるため、内容を明確にするよう要請した。

日本は上杉謙太郎外務政務官を派遣し、同政務官は2022年4月26日にソガバレ首相と会談し、ソロモンが中国と締結した安全保障協定について「懸念をもって注視している」と伝えた。

ソロモン諸島は、1883年に英国の植民地となり、1976年に自治権を獲得した2年後の1978年にイギリス連邦加盟国の英連邦王国として独立した。

また、ソロモン諸島は1983年から台湾と外交関係にあったが、2019年4月、ソガバレ首相再任後は、「国益に基づく対外関係の全面見直し」を表明し、同年9月16日、台湾と外交関係を残絶して中国と国交を樹立した。

2021年11月24日、ソロモン諸島マライタ州の台湾支持派住民1,000人以上がソガバレ首相の対中関係強化策

に反発し、退陣要求デモ隊の一部は国会に突入した。翌25日には暴動に発展して中国人が経営する商店などが襲撃され、略奪・放火が行われた。

中国は、この暴動の鎮圧を口実にソガバレ首相に急接近して安全保障協定を締結し、南太平洋への進出と影響力の拡大を図ったと警戒されているのである。

米国、オーストラリア、ニュージーランドそして日本の政府高官は、2022年4月18日に安全保障協定への対策を協議するためにハワイのホノルルで会談し、「自由で開かれたイ

ンド太平洋に対する深刻なリスクになる」との懸念を表明して、太平洋島嶼国への関心をもち続けていくことを確認した。ソロモン諸島のガダルカナル島で全体主義国の中と民主主義諸国との間の心理戦と情報戦が始まった。ソロモン諸島をウォッチしよう。



(出典: <https://www.cnn.co.jp/world/35180039.html>)